

氏 名	浜 田 恵 三
学 位 の 種 類	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	第 4905 号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項
学 位 論 文 名	都市商業地における新たな街並み形成に関する研究 —セットバック空間を活用した私有地の社会的利用による商環境整備—
論文審査委員	主 査 教 授 杉 山 茂 一 副 査 教 授 赤 崎 弘 平 副 査 教 授 横 山 俊 祐 副 査 教 授 徳 尾 野 徹

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、「都市商業地における従来の街並み整備手法が、街並み統一を意識するあまり、個々の店舗の魅力を活かした街並み形成につながらない」という問題意識をもって、私有地の社会的利用による商環境整備という新たな街並み形成の視角を提示し、具体的計画手法として、セットバック空間の創出とその活用をとりあげて、その課題を探ったものである。1 章では研究の背景と目的について述べた。

2 章では、アーケード・街路舗装による商環境整備、歴史的・伝統的景観を活かした街並み形成、イメージ統合型戦略による街並み形成といった、従来の都市商業地における街並み整備手法の特徴と課題を整理し、これを踏まえて、セットバック空間を活用した私有地の社会的利用による商環境整備という、新たな街並み形成の意義と課題を記述した。

3 章では、セットバック空間を活用した街並み形成がみられる大阪市南船場地区、奈良市小西地区、神戸市岡本地区の 3 地区を対象として、文献資料及び経営者や関係者のヒアリング調査をもとに、対象地区の都市商業地への発展過程、街並み形成のプロセスと形成要因、現況と課題について記述した。その結果、一部の先導的店舗のみによる街並み整備は、持続性という点で問題があり、地域内の組織的な共治体制の継続が必要なことが認められた。

4 章では、調査対象 3 地区の現地観察調査を実施し、そこでのセットバック空間活用の実態をみた。3 地区の実態から、「セットバック空間活用における緩やかな個性の発現が多様性のある街並み形成につながること」、「一部の先導的役割を果たす店舗とこれに過半の店舗が連動することによって、漸次的に街並みが形成されていく可能性があること」といった新たな商環境整備に関わる示唆が得られた。

5 章では、以上の結果を踏まえて、本研究で目的とする新たな商環境整備の意義と課題を、以下のようにとりまとめた。

- ① セットバック空間活用した街並み形成の意義として、商業者全員の合意形成がなくても、個々の店舗が自己発意的、漸次的に魅力ある街並み形成を可能にする。
- ② セットバック空間は、都市計画制度やまちづくりルールによって創出され、街並み形成の推進には、自主的ルールによる 2 m 以上の後退距離の創出が望まれる。
- ③ この街並み形成を望ましい状況に導くためには、ルールの周知や活用を促す情報提供など、地域内で規範を醸成させ、街並み形成を管理することが必要となる。
- ④ この街並み形成を継続させるためには、地域内の組織的な推進体制の強化と指導による共治体制の確立が必要となる。

論文審査の結果の要旨

従来、都市商業地における街並み整備は、アーケード・街路舗装による整備、歴史的・伝統的景観を活かした街並み形成、イメージ統合型戦略による街並み形成といった手法によってきた。これらの手法は、公の街路等を整備する一方、私有部分に対しては統一ないしは規制する傾向が強かった。これらの手法による街並み整備は、個店による自己発意的な街並み形成を抑制し、環境の変化に対応しにくいという面をもち、商業者全員の合意形成が得にくい場合には、これらの手法自体の適用が難しい。

本論文は、個店による自己発意的な街並み形成を誘導するものとして、セットバック空間に着目したものである。すなわち、公と私との間に位置するセットバック空間が適切に活用され、広場や歩行者路などが生み出されるとともに個店の魅力が表出される場となれば、これらの織り成しによって、快適で賑わいのある商環境が創出されと考え、このような立場にたった街並み整備手法の確立を目指したものである。

本論文では、セットバック空間をもつ事例として、大阪市南船場地区、奈良市小西地区、神戸市岡本地区の3地区を取り上げ、まず3地区の都市商業地への発展過程、街並み形成のプロセスと形成要因、現況と課題について記述している。次いで、3地区のセットバック空間活用の実態を調査し、セットバック空間の成り立ちとその活用のされ方の関係を分析している。その結果、セットバック空間活用による街並み整備の意義を確認し、セットバック空間としては自主的ルールにもとづく2 m以上の後退距離が望まれる等の知見を得ている。また、街並み整備の継続的推進のためには、セットバック空間活用における規範の醸成と共治体制の確立が必要なことを課題として提示している。

本論文は、都市商業地における新たな街並み整備の方向を提示し、その意義を検証した上で、計画手法上の有用な知見を得ている。したがって、本論文の著者は、博士（工学）の学位を受ける資格を有するものと認める。